

「輝く沖縄市の企業家たち！」

ノア スタイル
株式会社 Noa Style 代表 菅 淑子 さん

チーフ 菅 絵李加さん

令和2年12月21日（月）インタビュー

仲程 コロナ禍の大変な時期にインタビューをお受け下さいまして、ほんとうにありがとうございます。マスクをして距離を取りながらインタビューさせていただきますのでよろしくお願い致します。

はじめに Noa Style さんの事業について簡単に教えて頂けますか。

菅 はい。私達はドローン空撮、映像編集、動画編集を得意とする会社で、「小さな映像会社だからこそ、お客様のご要望にスピーディかつ柔軟に対応する」をモットーに活動しています。娘の絵李加と二人で2年前に立ち上げた会社です。

仲程 ありがとうございます。具体的な内容はこの後くわしくお聞きするとして、次に、沖縄市で創業された理由や経緯などをお伺いしてもよろしいですか？

菅 はい。実は娘と二人で沖縄に移住してきたんですよ。それまでは群馬県に30年あまり住んでいまして、お家も建てて、そこに一生住むのかなと思っていました。こっちに来たきっかけというのが・・・ちょっと長くなっちゃいますが、大丈夫ですか？

仲程 大丈夫ですよ。ぜひお聞きしたいです。

カフェにいる感覚で気楽にお話しできる範囲でいいですよ。

菅 ありがとうございます。実はね、娘が埼玉で一人暮らしを始めたのですが、まもなく病気になってしまって。しばらく母である私が群馬から埼玉の娘のアパートに通ったり、いろいろな様子を見たんですけれども、本当に大変で気持ちもどんどん病んできてしまって。そういうのが顕著になってきたので、いったんお休みにして実家に帰って来なさいと言ったんです。

仲程 群馬の家に帰ってきてもらったんですね。

菅 そうです。家に帰ってきて少し療養させていたんですけれども、体重は減るわ減るわですごくいいことになったんです。「やりたいことが見つければいつでもできる

んだから、いまは一回お休みの時期ね」と二人で話し合っ、しばらく家事手伝いをやってもらっていました。

仲程 のんびりしてもらおうことにしたんですね。

菅 はい。私がフルタイムで働いていたので、お家のことはお願いねということでした。それで、私では対応できないと思って、むかし私が大変お世話になった総合病院のドクターに診てもらおうことにしたんです。最初は紹介状を持って外来で行ったのですが、「即入院だ！立っているのが不思議なくらいだ」ということで、すぐに車いすで診察室や検査室に運ばれたんです。

ところが、約3か月の入院でもあまり良くならなくて、再び家に戻って生活していました。落ち込んだそんな日々が続いていたんですね。その頃にはもう最悪の事態も覚悟し始めていて、「最後にやりたいこと、何かある？ 何でも聞いてあげるよ」って聞きました。そしたら「沖縄に行きたい」と言うんです。高校生の時に修学旅行で沖縄に行ったことがあったのですが、決められたコースを回るだけだったので、自分のペースでゆっくり回ってきれいな海をもう一度見たいと言うんです。

すぐにチケットを手配して沖縄に飛びました。恩納村のリゾートホテルに宿泊しました。滞在中にマリンスポーツも一件予約していたのですが、あいにくの雨でキャンセルになってしまったんですね。その日は予定を変更して美ら海水族館に行きました。ところが帰る頃にはものすごくいい天気になって、海がとっても綺麗だったので「ここまで来たんだから海の中に入りたいたいねえ！」と話しながらホテルに戻ったんです。たまたまホテルでもマリンスポーツのプランがいっぱいあって、予約が取ればホテルのプランから選ぶことにしたんですね。潜水ヘルメットを着けて海底を歩くシーウォークを体験しました。そこには救命資格を持っている方がいらっして、その方にサポートしてもらいながら、病気の娘も無事に海に入れました。海を見たことはあったのですが、海の中を見たのは二人とも初めてで、透き通った海でお魚さんをいっぱい見て、娘はその時から海の中の世界にもものすごく魅了されてしまったんです。

残念ながら、旅行で来ていましたから日程通りに群馬に帰ったのですが、娘はその後もしーウォークをサポートしてくれた方と個人的にラインでやり取りしていたんですね。私たちが初めて沖縄に来たのが5月だったのですが、その後も娘は6月から12月まで毎月1回は沖縄に通い続けたんです。しかも一人で。

そこで（娘の活動が）がらりと変わったので、親としてみれば一人で行けるなら、お金はいくらでも出してあげるから行きなさいと送り続けたんですね。すると、ダイビングの資格もその年のうちに取っていたんです。

その年の年末年始は二人で沖縄に来たんですが、毎月通うんだったら、もう沖縄にアパートを借りようかということで、（正月）1月2日に案内してくれる不動

産屋さんがいないかと探したんです。

仲程 それは2018年のことですか？

菅 そうです、2018年です。

仲程 ところで、お嬢さんが病気を克服できたきっかけは何だったのでしょうか？

その兆しはいつごろから見えてきたのですか？

菅 沖縄来てからです。ご飯も食べるし、許田の道の駅に寄った時も「沖縄そば食べたい！」と言い出すようになったんです。そうですね、許田の駅の沖縄そば屋さんが一番良かったのかなあ。ちょうどお昼の時間が過ぎたところに立ち寄ったのですが、「店のおじさんやおばさんが、あれも食べな、これも食べな、いっぱい食べな、と言ってくれたのがとっても嬉しかった」と娘は言っていました。そこからぐんぐん元気になってきましたね。

仲程 へえ、それがきっかけだったんですね。

菅 また、マリンスポーツをサポートしてくれた方も、病気を経験した方で、かなりサポートしてくれたんですよ。そういうこともあって今は本当に元気になりました。

仲程 いろんな方々との運命的な出会いがあったんですね。

菅 そう！そうなんですよ。

なんで沖縄市なのかって話ですが、実は沖縄のホテルに泊まっているときに、それも偶然なんですけど、3度も同じタクシーに乗ったんですね、そのタクシーの運転手さんに沖縄について尋ねると、「住むなら東海岸が良いよ。沖縄市か、うるま市が暮らしやすくてオススメだね」と言ってくれたんですよ。それからアパート探しを始めたのですが、たまたまこのマンションの広告が目に入って電話したら、正月で会社は休みだけど、個人的に時間があるから案内しますよ、と対応してくれたんです。実際に物件を見ると、娘が得意なケーキ作りにぴったりの広いキッチンがあって、景観もいいし、実は私、前職が不動産屋さんだったので（造作）見てすぐに決めました。とんとん拍子に話が進んで、2月には群馬の荷物を全部移しました。すると娘が「私は沖縄に居ていい？」と言って住み始めたんです。

仲程 群馬では戸建てに住んでいたんですか？

菅 はい、そうです。大きい家でしたが、住み続ける理由がなくなったので売ることになりました。ただ、当時の私は不動産会社の役員をしていましたから、すぐに沖縄に移住するわけにいかなくて、なんかやや整理をつけて沖縄に移り住めたのは9月になってからでした。

仲程 それまでは絵李加さん一人ですと沖縄に居たんですか？

菅 そうです。私は祝日や会社の休みを使ってこちらに通っていました。

仲程 へえ、群馬と沖縄を往復されていたんですね。

菅 そうなんです。で、先程お話ししたインストラクターの方がいろんな事業をされていて、ドローンのパイロットでもあったんですよ。

ドローンのことは知ってはいたんですが、当時の私は「へえ〜」と聞き流す程度だったんですね。おなじころに群馬の不動産会社のトップが「ホームページに動画を載せるのはどうだろうか。どう思う？」ときいてきたんです。

「動画？動画といえば空撮でしょう、空撮といえばドローンでしょう！」ということが頭に浮かんで、私は娘の様子を見に沖縄に来るついでに、マリンスポーツのインストラクターの方にドローンの講習をお願いして操縦や空からの景色の撮り方などを教えてもらいました。

仲程 マリンスポーツをサポートしてくれた方が、ドローンの講習もしてくれたんですか。

菅 ええ、私たちにとってその方は本当に重要なキーマンなんです。

ドローンのことを色々教えてもらって「わあ、すごい！！」となったんです。実はドローンの許可は私の方が先に取って、その間に娘はいろんなアルバイトをされていて、友達も増えて、たまたまドローンの話をしたら「私だってやりたかったのに！ 何で教えてくれなかったの？」と言ってきたんですよ。

「やってみればいいさ」ということで、私が沖縄市に完全に移住しはじめてから娘も特別に講習を受けさせてもらったら、まあ、その師匠さんから「センスがいい」「こんなにできるとは思わなかった」と大絶賛されたんですね。

私は根っからの文系人間ですが、娘は根っからの理系女子なんですね。そんなこともあって呑み込みが早かったんだと思います。あっという間に免許皆伝です。

仲程 お二人ともドローンに夢中になったんですね。すごいですね。

菅 で、二人で話をして、「自宅を売ったお金は何もしなければ減っていく一方だから、会社でもやる？」ということになって、この会社を作ったんです。

すごい長い話になっちゃたんですけど。ごめんなさいね。

仲程 いえいえ、すごい経緯があったんですね。聴き入ってしまいました。

菅 実は、私は群馬で勤めているときに、くも膜下出血で倒れたことがあったんですね。ちょうど娘が小学校2年生になる始業式の日だったのですが、幸いにも直ぐに救急車で病院に搬送されて、10時間近くの手術で一命を取り留めたんですよ。でも娘がまだ小さかったので、生活のために頑張れたんですね。

仲程 親子で病気を乗り越えた過去があるんですね。ところで娘の絵李加さんは25歳くらいですか。

菅 そうです、今25歳です。

仲程 ドローンを使った会社を立ち上げようと言い出したのは、どちらが先だったのですか。

菅 私ですかね。

仲程 絵李加さんも乗り気になったんですか？

菅 そうです、まあ、私の中に親として何とか道を作ってやりたいという思いもありますからね。大学も中退し、アルバイトで食いつないではいるものの、私に何かあったら娘は一人になってしまうわけですから、彼女自身がやりがいを持って取り組める会社を残してやりたかったわけです。
親はそれぐらいしかやってあげられないですからね。

仲程 とてもいい道を選んだような気がします。ドローンのニーズはこれから益々高まってくるはずなので。

菅 そうですね。そうだといいのですが。
設立したのが去年の4月19日なのですが、私はまだドローン業界に精通しているわけでもなく、また娘も画像編集を手探り状態でやり始めた段階なので、今は一件でも多くの仕事をこなしながら経験や技術を習得している最中です。
また、娘は沖縄商工会議所青年部やBNI（世界最大規模の異業種交流会）に加入して、いろいろな人たちと交流しながら活動しています。
おかげさまで今年から仕事が増え、手ごたえのある実績もあがってきました。

仲程 仕事の依頼はどんなところから来ますか。

菅 やっぱり人づてですね。口コミが多いです。
つい先ほども仕事の紹介がありました。専門学校からも依頼を受けて撮影から編集までやらせていただきました。

仲程 それはどんな内容ですか。空撮とかですか。

菅 空撮ではなくて地上撮影でした。学校のホームページに掲載するPR動画でした。あと、今年いちばん胸を張って頑張ったよと言えるのが、西普天間住宅区の空撮ですね。（米軍基地との関係で）あそこはドローンの空撮はほとんど許可が下りないんですよ。また日本の法律ではドローンは150m以下しか飛ばせないんですね。それを350mまでの高高度申請を空港事務所に提出し、さらに防衛局ともやり取りして許可をもらって飛ばしました。

仲程 それで高い所から撮影できたのですね。

なるほど、絵李加さんにとっては経営の勉強にもなりますね。いいですね。
先ほどの話に戻りますが、たいていの人は高度150m以下の規制があれば、撮影をそれ以下で抑えると思うんですが、お客様の目的を叶えるために必要であれば、空港事務所や防衛局とも粘り強く交渉して許可を取り付けるというのはいすごいですね。その壁を突破する行動力はすごいです。

菅 いえいえ、いろいろな人に教えて頂いたおかげですよ。
分からないことは人に聞くのが一番だと思っていて、あちこちに電話してきまくりました。防衛局の担当の方とも仲良くなってしまって、いろいろなことを教えて頂きました。

仲程 なるほど、こまめにお願いや相談をされていたんですね。

菅 はい。その分、こちらも一生懸命に取り組みました。

きれいな動画を撮影したかったので、風の影響を受けにくい大型のドローンを購入し、娘に大型機の操縦免許も取らせました。

その間に法律も変わって、警察署への届け出も必要になったんですね。警察署に何度も通って申請しました。撮影日には職員の方々も大勢見学に来て下さいました。

仲程 警察の方も、今後のドローン普及に備える必要があって見学されたんでしょうね。ちなみに、現在ドローンは何機保有されているんですか。

菅 4機です。ご覧になりますか？

仲程 はい、見たいです。写真を撮ってもいいですか？

菅 はい、大丈夫です。こちらへどうぞ。

====作業部屋を見せて頂く====
大小4機のドローン、数々のバッテリー、キャリアケース、各種撮影機材が整然と棚に収納されている。部屋の奥には編集作業用パソコンとデスクがある。
各ドローンの基本性能やバッテリーの持ち時間、コントローラの扱い方などを説明頂いた。
=====

仲程 ところで、(障がい者就労・生活支援センターの)^{はなあかり}花灯さんに雇用の相談をしたきっかけは何だったんですか？

菅 そうですね、スタッフを補強する必要性を感じたのがきっかけです。

今年から本格的に事業展開しようと思っていまして、機材の拡充は公庫や銀行からの借り入れで目途を立てたんですが、後はスタッフ、いわゆる人材の確保ですね。これまではお客様との打合せや撮影、編集、納品まですべての作業を娘が一人でやっていたんですが、もう仕事量が増えてこなせない状況になってきたんですよ。それで、編集作業だけでもスタッフを採用して分担させたいと思ったんですね。編集作業って健常者よりも、むしろ障害を持っている方の方がセンスが良かったり、集中力があったりするものですから、そういう人がいないかと花灯さんに相談したんです。現に障がいを持ちながらも、素晴らしい動画編集の仕事をされている方がいらっしゃいます。

仲程 そういう経緯があったんですね。花灯さんもかなり菅さんたちのこと応援しているようでした。

菅 そうなんですよ。採用の際にもハローワークにつないでくれたおかげで、短期間

でたくさんの応募をいただいたんです。その中から面接で2名を採用できました。ほんとに助かっています。その人たちの育成方法についても花灯さんには相談に乗ってもらっています。

仲程 最近はどうな仕事の依頼が多いのですか。

菅 最近多い案件はセミナーや講演会の動画ですね。コロナの影響で人を集めることができないので、ユーチューブやズームで配信できる動画を作成してほしいという注文が多いです。6時間や7時間の尺の動画を、細部までチェックして、カットしたり繋ぎ変えたりする編集作業は大変なんです。1時間の動画でも編集に丸々三日もかかったりします。お客様と約束した納期を守るために徹夜で作業することもざらです。

仲程 コロナの影響というのはいかがですか？

菅 もちろんありますよ。キャンセルとか急な内容変更とかですね。最初は私達、観光客をターゲットにしようと考えていたんです。だけど、地元の人から依頼される仕事の方がやりがいがあるし、打合せが必要になったら直ぐに行って確認できるしね。その方が沖縄に恩返しできるし、そこに芯をきっちり定めて、今年は環境整備に重きを置いてやってきました。

菅 あっ、娘が帰って来たようです。

はい、お疲れさま。

絵李加 ただいま。

菅 うちのドローン・パイロット兼クリエイターです。

仲程 こんにちは、お邪魔しています。

先ほどから1時間くらいお話を伺っております。

菅 あの実は私、会社を立ち上げる前に企業誘致課さんに相談に伺ったんです。その時にいろいろと沖縄県内のドローン事情を教えてくださいました。

仲程 ああ、そうでしたか。

絵李加 あの、母はドローンに夢中なので、その話ばかりしていたと思うんですけど、うちは映像会社でして、ドローンはあくまで撮影の手段でありツールなんです。撮影と編集が事業のメインなんです。

菅 あと、娘は水中もお手の物なので。

仲程 ええ！水中撮影もなさるのですか。

絵李加 水中での撮影はまだまだです。海難救助とか救命関係の資格やインストラクターまでのライセンスを取得してからショップとして始めたいと計画しています。

仲程 将来的には水中撮影サービスも提供する予定なのですね。

海中ドローンもやる予定なのですか。

絵李加 はい。映像撮影の手段として活用する以外にも、なにか災害とかがあった時に遭難救助などが出来ればと考えもあって、その方面の知識も身に付けてから仕事と

して始めたいと思っています。

菅 それと、なんだっけ、沖縄市の防災サポートにも加盟したんだよね。

絵李加 はい。沖縄市のNPO法人「防災サポート沖縄」にも会員登録しました。知り合いが先に加入していて、その責任者の方からもお誘い頂いたのですぐに会員登録しました。防災サポートに参加しながら、いろいろと勉強したいなと思って。

仲程 そうなんですか。すごいで行動力ですね。

菅 だからね、楽しくてしょうがないよね。

絵李加 やることは、いっぱいある、かな。

菅 本当に楽しいよね。

で、私の方が仕事環境整備の延長でもあるんですけど、来年から再来年くらいには今の（自宅）事務所ではなくて、きちんとした事務所を構えて、編集スタッフも障がい者雇用をどんどん進めて5人、10人と増やしていきたいなと考えています。

仲程 いいですね！ 来年か再来年は新しい事務所を探す年になるわけですね。

泡瀬の海岸近くにITワークプラザという沖縄市のインキュベーション施設があるのをご存知ですか。現在は満室ですが、空きが出たら入居者募集するので一度ご覧になったらいかがでしょうか。ご希望であれば企業誘致課で事前視察をご案内できますので。

菅 ああ、そうなんですか。ぜひ、ぜひ、いろいろ教えて下さい。私もとにかく分からないことがあるといろんな人にお聞きするんですけど、どこに聞けばいいのか分からないことも多くて。

仲程 ところで、Noa Styleさんの魅力をこの広報誌でしっかりご紹介したいのですが、特にアピールしたいポイントがあれば教えて下さい。

絵李加 「ちいさい会社で女性だからこそ柔軟な対応が可能」ということですね。あとは、「映像を身近に感じてほしい」ということが一番ですね。いろんな企業が映像は高価だとか、あまり縁がないと思う方も多い気がして。でも、だんだんそうじゃなくなってきたんじゃないですか。だから、もっとより身近に捉えてほしいし、自分のツールとして使ってくれる方が増えればいいと思います。

仲程 ありがとうございます。よくわかりました。もう一つ教えて下さい。

社名“**Noa Style**”にはどんな思いを込めて命名したんですか。

絵李加 “NOA”はハワイ語で「自由」という意味なんです。この会社も映像だけにこだわるのではなくて、自由に、時代の変化に合わせて柔軟で優雅に、対応していく会社にしたいという思いを込めました。

菅 そう、会社名が示す通りで、うちにはいろんなカテゴリーの撮影依頼が寄せられるんですよ。それこそ自由にこだわりがないんです。

- 絵李加 クライアントもいろんな企業さんだったり、施設さんだったり。
- 菅 今年の大みそかに撮影するのは、自分史作成の依頼なんですよ。これまでの自分史は今まで紙ベースだったと思うんですけど、今回は自分が小さかった頃からの写真を撮影してカラーリングしたり、時代を追って動画に編集したりしてDVDにするんですね。
- 絵李加 それを生年祝いやパーティーなどで上映してお披露目するんですね。そして参加された方々にお土産としてDVDをお渡しするんです。
- 仲程 **素晴らしい取り組みですね。**
- 菅 そういう案件もあれば、お掃除屋さんや飲食店のユーチューブとか、ダンススクールのプロモーション動画や専門学校の学科紹介ビデオとか。いろいろやっています。
- 絵李加 最近では小学校生向けの教材開発の依頼をうけました。
- 仲程 **色々とされているんですね。**
- 絵李加 あと、いろんな地域の活動もやっていきたくて参加しているんですけど、本当にいろんな方がいらっしゃるの自分自身がとっても勉強になっているんです。多方面に色々見ることができるので勉強させてもらって仕事にも生かしていきたいです。
- 仲程 これからも応援して行きたいと思いますので、引き続きがんばってください。
本日はお忙しい中、いろんなお話をお聞かせ下さって本当にありがとうございました。

インタビューー：仲程、大嶺

会社名	：	No a S t y l e
住所	：	沖縄市比屋根1丁目10-5 サンクレスト泡瀬203号
電話番号	：	090-4943-6798
メールアドレス	：	noastyle.okinawa@gmail.com
問い合わせ先	：	企業誘致課（内線：3242）